



ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL87 令和2年1月



更なる高みをめざして

医療法人真誠会が出来て32年目、社会福祉法人真誠会が出来て20年目になりました。そして従業員の数も600人を越え、42事業所の医療福祉複合体として、企業として青年期から成人期にはいったと感じております。

今までの20年、30年は地域、あるいは全国の医療福祉法人の後を追いかけてきました。

もちろんこれからも人から学び続けながらも、自社の実力をつけもっと自立的な発展ができるようにならなければいけないと思っております。それには教育の更なる充実です。特に真誠会は地域密着型のサービスを、しかも急速に膨張しながら展開しているので、指導者群の指導が末端まで伝わりにくいことが一つの要因と考えております。

それに加えて、本年も米子市福生東地区に小規模多機能型居宅介護・真誠会プラザができ更に広がって行きます。

言い換えれば、真誠会の強みが弱みにつながっているのです。そのため本年から職場のパラダイムシフト（革命的組織改革）をして、新しい教育体制を試みたいと思います。

私の評価では現在の真誠会スタッフのレベルは、理想としているレベルの60%と思いますが、一年で70%、二年後に80%にレベルアップし、ケアマネジャー、介護福祉士、社会福祉士、その他の資格の取得率も向上することにより、スタッフの努力の結果が目に見えようと思います。

セントラルクリニックは、昨年より河崎院長、春日副院長のコンビで令和時代の真誠会がスタートしました。私が診てきた患者さんをほぼすべて二人のドクターに引き継ぐのには後1から2年かかると思いますが、その先には新しいイメージのセントラルクリニックが出来上がると思います。

これから更なる高齢化、少子化で社会保障制度も私たちが生きにくくなる時代になるとは思いますが、そのなかでも力強く生き抜いて行ける力強い医療福祉法人になりたいと思います。



医療法人 社会福祉法人真誠会
理事長
真誠会セントラルクリニック
名誉院長

小田 貢

天空に大きな円を描き、その弧になりなさい：日野原重明

ホスピタウンホームページ——URL <http://www.hospitown.or.jp/>



第15回 弓浜助け合いネットワーク 住民主体の共生社会づくり



米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第15回弓浜助け合いネットワークの会」が令和元年12月1日、弓浜ホスピタウンで開かれました。住民主体の共生社会づくりをテーマに、地域住民ら約400人が参加し、基調講演やシンポジウムを通じて、全ての人々が共に支え合う「共生社会」について理解を深めました。

【主催】米子市(米子市弓浜地域包括支援センター)・弓浜助け合いネットワーク実行委員会
【共催】社会福祉法人真誠会、NPO法人がいなネット 【後援】米子市社会福祉協議会

基調講演

弓浜で一足お先に共生社会

超高齢社会を生き抜くには、地域で助け合わなければなりません。そのことを皆さんに理解してもらうために「弓浜助け合いネットワークの会」を開き、弓浜地区では15年前から助け合いのまちづくりに取り組んできました。

恩師の故・日野原重明先生から「人間は死を忘れてはいけない。死を意識することで、今日を精いっぱい生きることにつながる」と教わりました。いまや人生は100年時代です。健康で時間があるなら、何か人のために尽くすという価値観を持ってください。厚生労働省が普及を進める「人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)」が話題になっています。もしものときのために、望む医療やケアについて前もって考え、話し合い、共有する取り組みです。「食べたい物」「行きたい場所」、相続も含めて自分の意志が伝えられ、行動できるうちに具体的に話すことが大事です。感謝の言葉も忘れずに伝えておきましょう。

認知症であろうと、障がいであろうと、老若男女誰もが、地域の仲間として一緒に助け合うのが共生社会です。そのためには認知症や障がいを理解し、愛情のある対応をすることが必要です。地域の会議に女性や障がいのある人も参加し、自分の立場や希望を発言することで本当の意味の共生社会をつくることができます。必要な支援を知っておけば、災害時の対応に生かれます。誰もが生き生きと暮らせる共生社会を一足早く弓浜地区から実現したいと思います。



医療法人・社会福祉法人 真誠会
理事長 小田 貢

シンポジウム

地域でボランティア活動をしている5人の女性が、様々な取り組みを発表し、意見交換を行いました。



卓球大会で地域交流

地域活動支援センターひまわりと共に

地域活動支援センター ひまわり 副理事長 木田眞澄氏

幸せ実感をお寺から

ありがとうに満ちたくらしを ~夜見のお寺の取り組み~

迎接院 寺庭婦人 伊藤紀子氏

笑顔励みに地域活動

仲間たちとともに

富益地区民生児童委員協議会 民生児童委員 藤原マリ氏

愛の目を向け見守り

更生保護女性会 会員活動と私

崎津地区更生保護女性会 会長 矢倉紀子氏

広がる「お庭サロン」

和田町お庭サロン活動報告

弓浜支え愛センター オレンジ&共生カフェ 世話人 大前恭子氏

令和元年度地域課題対応人材育成事業
「地域コアリーダープログラム」

オランダ海外短期研修

通所介護真誠会セントラルローズガーデン
事業所長 中田 純平



私は11月に内閣府の事業である、地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」高齢者分野に選ばれ、10日間のオランダ派遣と東京でNPOマネジメントフォーラムに参加しました。

「高齢者が孤立しない施設環境やネットワーク作り」を個人の視察テーマにしました。オランダではアムステルダム、ゴータ、ユトレヒトの3都市を訪問し、11箇所の視察を行いました。一番印象に残っているのは、ゴータ市にあるパレート・ウェルズインという地域の高齢者の孤立を解消するために取り組む施設です。そこは、高齢者施設の1階に地域のレストランがあり、入居者や地域の住民、ボランティアをする人など地域の様々な人が集える場所でした。日本では日常的に高齢者が集う場所が少ないと感じていた中で、このような居場所があるのが孤立を防ぐために重要なのだと改めて考える貴重な視察となりました。

帰国後のNPOマネジメントフォーラムでは共生社会に向け、それぞれの分野が「対話」していくことが重要であり、始まりではないかと各国の青年達と相互理解ができました。

私の働く米子中央ホスピタウンは10月より「共生カフェ」を運営しています。共生社会の実現のため、子どもからお年寄り、障がいの有無に関係なく、様々な人が集い、対話できる場所にしていきます。そのために、地域の方との協力、連携体制を日々の関りの中で作っていきます。

最後に、プログラムを通じ、多くの仲間を作ることができました。地域や国境を越えた繋がりを大切に、今後の人生に活かしていきます。



障がい者を支援する施設「アムスタ」にて。
コロナ禍の方たちと一緒に。

東京大会 第10回 オールジャパンケアコンテスト

～介護の質の向上と地域との繋がりを目指して～

令和元年10月19日に第10回オールジャパンケアコンテストが東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。真誠会から4名の介護職員が参加し、全国から集まった介護現場に携る職員が介護技術を競い合いました。その中で真誠会からは、通所介護真誠会ローズガーデン 長谷川 千穂さんが口腔ケアB部門で「奨励賞」に、養護老人ホーム皆生エスポワール 鎌田 光男さんが認知症A部門で「優秀賞」に選ばれ表彰されました。



優秀賞

鎌田 光男さん

この大会で学んだことを職場や地域に伝えていけたらと思います。また機会があれば違う分野で挑戦したいです。



奨励賞

長谷川 千穂さん

今大会では1つの課題に向かい、事業所の職員や介護会のメンバーと共に考え学び、真誠会全体で頂けた賞だと思います。

第30回 全国介護老人保健施設大会で優秀奨励賞を受賞

平成30年に開催された「第29全国介護老人保健施設大会 埼玉」にて、真誠会セントラルクリニック河崎院長の指導のもと発表した演題が優秀奨励賞を受賞しました。授賞式は、令和元年11月20日に開催された「第30回全国介護老人保健施設大会 別府大分」にて執り行われました。

演 題：老健施設入所者における咳嗽時最大呼気流量の検討

発表者：頭本 匡史

研究者：河崎 雄司、頭本 匡史、齋木 眞由美、狭間 俊希、秋田 庸子
福田 高之、岡野 麻未



第23回 ホスピタウン交流会 in熊本2019に参加して

医療法人・社会福祉法人真誠会
理事長 小田 貢



令和元年11月15日、にしくまもと病院で第23回ホスピタウン交流会in熊本が行われました。

事前に林名誉院長から、現場のそれぞれの専門領域の意見交換をしてはどうか、との提案で真誠会から私、専務、春日副院長をはじめ合計11人が訪問することになりました。

真誠会スタッフは私より前日に熊本へ行き、その夜は、にしくまもと病院のスタッフと懇親、交流会を行い大いに盛り上がったとのことでした。

翌日、11月16日は、朝から「～専門職種間連携協働IPWによる令和のチーム医療・介護～」というテーマで意見交換が行われました。今回は、ほぼすべての専門職の責任者が顔を合わせて具体的な意見の交換ができ、とても参考になったとの感想でした。

私たち夫婦は、午後の部から出席し、各施設の代表の発表がありました。真星病院 診療技術部 元持 富見代 薬剤科長、八鹿病院 救急科部長 倉橋 卓男先生、にしくまもと病院 病院長 山口 浩司先生の講演がありました。

私は特に、山口院長の講演に興味があり、いろいろな観点から新院長先生の人となりを分析しましたが、話の内容、話し方、聴衆の気持ちのつかみ方など、新院長として素晴らしい先生であり、林先生の後継ぎとして相応しい先生だと思いました。

そのあと私は「右脳でひらめき、ときめく夢を実現する」というタイトルで、事業を指導するものは「ひらめき」が必要であり、誰もがときめくような事業を考えることが大切であるとの要旨でお話をしました。

夕方からはニューホテル熊本で出席者全員での会食があり、とても和やかに楽しい食事会でお互いの絆がさらに強くなりました。二次会は同ホテルの別室で、林先生、倉橋先生、大石先生、春日先生、そして私、専務で行いました。メインテーマは決めてはいなかったのですが、自然に「次世代につなぐ」ことでした。

今後、お互いに意見交換を継続してお互いの病院医療機関が確実に次世代に承継され更なる発展を誓って会を終えました。

本年のホスピタウン交流会は、真星病院(神戸)で行われる予定で大いに楽しみにしております。

タスキをつないで
認知症の人々と出会う・繋がる



RUN伴 鳥取 2019
ランとも

RUN伴(ランとも)は認知症の人と接点がなかった地域住民と認知症の人や家族、医療福祉関係者が一緒にタスキをつなぎ日本全国を縦断するイベントです。鳥取エリアは令和元年10月19日に米子市で開催され、真誠会からは、認知症拡大委員を中心に介護士、セラピスト、看護師の多職種7名のランナーが出場しました。当日、雨も降っていましたが無事タスキを繋げることができました。職員も沿道で旗を振ってランナーたちを応援しました。



私たちが出場しました!

150名が受講 広げよう、あいサポートの輪 あいサポーター養成研修



令和元年12月5日に、米子市役所福祉保健部障がい者支援課 吉井龍郎氏を講師に向かえ、あいサポーター養成研修が行われ、150名の職員が受講しました。はじめに講師から鳥取県で始まった「あいサポート運動」についてのお話をいただき、次に様々な障がいの種類と特徴についてのDVDを見せていただきました。



あいサポート運動とは、障がいのある方への必要な配慮などを理解し、障がいのある方が暮らしやすい共生社会をつくっていく運動です。研修を受けた職員は、あいサポート運動を実践していく「あいサポーター(障がい者サポーター)」として活動していきます。

今回の研修を受講した職員は、あいサポートバッジを付けて活動していきます。

今回の研修を受講した職員は、あいサポートバッジを付けて活動していきます。



あいサポートバッジ

「腰痛予防」研修 腰痛予防についての知識を学び、業務に生かそう

真誠会の労働安全委員会は「介護作業者の腰痛予防対策チェックリスト:厚生労働省」を参考にして、全職員を対象に腰痛に関する調査を行いました。その結果、腰痛を抱えている職員は介護士が42%、看護師は64%と半数以上が抱えていました。

そこで、法人の「セラピストの会」が中心になり、12月13日に職員へ腰痛予防の研修会を開催しました。腰痛予防のためには「重いものを持たない」「前かがみにならない」と言われていますが、介護・看護の仕事は、腰を使う動作の連続です。このような環境下において腰痛を予防するには、「持ち上げない」移動・移乗方法が大切とのことで、実践を交えての研修会でした。

業務負担軽減のために電動ベッドやリフトを積極的に活用し、腰痛予防に努めていきたいと思えます。



姿勢の直し方を実践を交えて指導しました

台風19号災害義援金報告

真誠会では台風19号災害の募金活動を行い皆様からの義援金をお預かりしました。職員からと募金箱に集まった279,274円と真誠会からの拠出金をあわせて、日本赤十字社を通じ被災地へ寄付させていただきました。皆様の温かいご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



養護老人ホーム真誠会 皆生エスポワール

衣類贈呈式

家庭で眠っている衣類を有効活用しようと、真誠会職員に寄付を募ったところおよそ900点の衣類が集まりました。集まった衣類は、養護老人ホーム皆生エスポワール入居者にプレゼントされることになり、12月13日に贈呈式が行われました。小田理事長がサンタクロースに扮して入居者代表の方々にクリスマスプレゼントとして手渡しました。

後日の配布会では、入居者の皆様が服を体に合わせては「似合うじゃない」「その色いいわね」など弾む声が響き、笑顔あふれる配布会となりました。



皆さんへの
クリスマス
プレゼントです



集まった衣類を男性用、女性用、サイズ別に仕分けしました



感謝の気持ちを込めて 学童児童が年末大掃除！

福米支え愛センターは、子育て支援に関する団体が多く利用されています。月に1回調理実習で利用している、NPO法人えがサポート放課後等デイサービスぐん☆ぐんの児童10名と職員6名が、令和元年12月21日に大掃除をしてくださいました。



部屋の隅々まで掃除機をかけました



窓も拭いてピッカピカ!

放課後等デイサービスぐん☆ぐんからトイレットペーパーを贈呈していただきました

ひとづくり まちづくり



令和2年元旦、和田町の新年祝賀会にて、看護小規模多機能型居宅介護真誠会ふるりの金田直己地域担当課長が、和田地区自治連合会より「ひとづくりまちづくり感謝状」をいただきました。



新年のご挨拶 ～本年もよろしくお願ひ致します～



真誠会
セントラルクリニック
院長 河崎 雄司



明けましておめでとうございます

本年も宜しくお願ひ致します。

私は昨年よりセントラルクリニックを担当させていただいております。診療を通じて健康であること、病気の予防が大切であることを再認識しております。本年より厚生労働省が「フレイル健診」を導入することです。フレイルは筋力、活動性などが低下した要介護の手前の状態ですが、フレイルの改善や予防の対策をとることは健康寿命の延伸のみならず病気予防にも役立つとされています。「フレイル健診」を行うことは難しいかもしれませんが、フレイルの1因でありますサルコペニア(筋力、筋量の低下)の診断はやってみたいものです。私は本年、学会の地方会を開催することになっております。学会の準備のため真誠会の皆様にご迷惑をおかけするかと思います、申し訳ございません。本年も春日先生に助けていただき頑張っております。本年もどうぞ宜しくお願ひ致します。



真誠会
セントラルクリニック
副院長 春日 正隆



新年の抱負

昨年、真誠会セントラルクリニックは小田院長から河崎院長への交代があり、私も副院長を拝命した転換の年でした。外来での患者さんの待ち時間を出来るだけ短縮出来ればと思い、予約診療を開始するとともに二診体制としました。この一年間で広く皆さんにご利用頂き、待ち時間が少なくなって楽になったと、喜ばれるお声を多く頂くことができました。

本年も院長とともに施設群を持つ真誠会グループにおける医療サービスの中核として、機能と役割を果たせるよう、外来・入院・訪問診療と患者さんに寄り添う医療が提供できるよう頑張っております。

次世代を担う者として、皆様のお声を頂きながら、新たなサービスにも取り組んで参りたいと考えておりますので、本年もどうぞ宜しくお願ひ致します。



介護老人保健施設
弓浜ゆうとびあ
施設長 五明田 孝



年頭にあたり思うこと

令和という新しい時代を迎えました。万葉集から採用されたと言われ爽やかで響きの良い年号です。今年は干支の始めの子年で植物に例えれば成長に向かって種子が膨らみ始める時期で未来に大いなる可能性を感じさせます。一連の即位式行事をつぶさに拝見して伝統に沿った素晴らしい儀式と感銘を受けました。これで私も昭和、平成と三時代を経る事になります。2020年はオリンピックの年で、東京で二度目の開催が見られるのは幸せなことです。

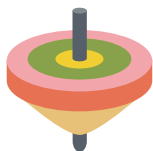
先日帰郷し、かつては国道54号線(松江-広島間)の難所中の難所と言われていた峠に、現在はトンネルが穿たれスイスイと通れます。このトンネルが開通して間もなく聖火リレーの行列が赤い炎と白煙を出しながら大歓声の中を見送られて通過したのを昨日の出来事の様に思えます。今回は通過しないとのことで残念です。

私事ですが、弓浜ホスピタウンが開かれたのが2000年でそれ以来の勤務で20年目になります。真誠会も新しい体制になり益々発展する様今年も頑張ります。

新年のご挨拶～本年も



介護老人保健施設
ゆうとびあ
施設長 松島 嘉彦



オーダーメイドのサービスを

私は昨年、真誠会に入社、最新の医療・福祉の現場から多くのことを学ばせていただきました。最大の収穫はエビデンス（数量化）。すなわち、クライアントの今の状態を言葉ではなく、数値で表現することの大切さです。当施設でも各クライアントの心身の状態をいろいろなスケールを用いて評価し、より安全かつ効果的なりハビリを提供させて頂いていますが、こころのケアでもMMSEやHDS-Rあるいは抑うつ尺度、視床下部機能評価尺度といったスケールを用いて評価させていただきながら、各クライアントに最適の「オーダーメイド」のサービスを提供させていただきたいと願っています。

元大リーガーのイチロー選手は「イチロー賞」を設けて長年、若手選手の育成をされていたそうですが、その目的の一つは、その賞を通じてその年の自分の業績を評価して、翌年の自身の成長の糧とすることだったということです。「真誠会アカデミー賞」と共通するところがありますね。本年もよろしく願いいたします。



医療法人・社会福祉法人
真誠会
統括本部長 前田 浩寿



新年の抱負

真誠会は今年9月、福生中学校区に小規模多機能型居宅介護「真誠会プラザ」を開設します。人が集まる場所という意味のプラザという言葉のとおり、地域の人々が集い、交流できる場所となるよう望んでおります。

様々な業界で、人手不足が問題となっている中で、地域・利用者から新たな事業所の設置を求められること、また、事業所で働くスタッフを真誠会のスタッフから紹介してもらえることに、皆様に対して感謝の気持ちを忘れることはありません。

これから益々増加する高齢者の方に、安定したサービスを提供できるためにも、また、深刻化する人手不足に対応するためにも、真誠会では3月よりベトナムから2名、8月にはインドネシアから2名の技能実習生の受入を開始し、来年度以降も継続的に受入を行う予定です。また、技能実習生が母国に帰った後は、日本で習得した介護技術を、それぞれの母国で活用できるような仕組みも考えていかなければならないと思っています。

ご利用者の皆様、真誠会で働くスタッフ、私たちと取引をして下さっている業者の皆様、そして技能実習生と、真誠会に係る全ての方に喜んで頂けるような法人としてあり続けることができるように、真誠会の統括本部長として、努力していく決意を新たにしております。本年も引き続き、皆様のご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



介護老人福祉施設
ピースポート
施設長 上村 真澄



地域と共に歩む真誠会

昨年は皆生に養護老人ホーム『皆生エスポワール』を開所しました。今年は福生東地区に、小規模多機能型居宅介護施設『真誠会プラザ』を開所する予定です。これまで米子市の弓浜地区を中心としてきた真誠会の医療福祉を日野川以西全域に広げてきたこととなります。このことは私たち真誠会は米子市の医療福祉に大きな責任を負うことになったということです。

真誠会は設立当初より、地域と共に歩むことを理念としてきました。私たちはこれまで国が進める地域包括ケアシステムを着実に実践してきました。これからもなお一層地域に入り医療と福祉に基づいた地域づくりに力を入れていきたいと考えています。米子市の医療福祉を牽引していくのだという気概を持って取り組んでいきます。

よろしくお願ひ致します～



養護老人ホーム
皆生エスポワール
施設長 足立 毅



共生社会を目指し様々な活動を

新年あけましておめでとうございます。

養護老人ホーム皆生エスポワールは、県から業務を引き継いで9カ月となります。昨年は養護老人ホームという、これまで真誠会では経験したことのない施設運営を、行政をはじめ多くの皆様のご支援ご協力により、なんとかやり遂げることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、真誠会は昨年、創立31周年を迎えました。そのような中、9月には「共生社会を目指す市民の集い」の開催、10月には「共生カフェ」の出陣式、12月には「住民主体の共生社会づくり」をテーマとした「弓浜助け合いネットワークの会」を開催しました。今後、真誠会では、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる共生社会をめざして様々な活動をしていくこととなると思います。何年後かに振り返ってみて、意義ある令和元年であったと言えるように頑張っていきたいと思います。



医療法人・社会福祉法人
真誠会
看護・介護統括部長
俵 智恵美

利用者の願いを叶える

昨年は仕事のあい間を作り、介護事業所の記録を監査してきました。

記録の中には家族の要望で「施設で過ごさせてやりたい」と記載されているカルテをよく、見受けました。

私たちが利用者のニーズではなく家族の要望を優先してサービス計画を立案し、実践している傾向にあると捉えました。

先日、新聞のコラムの掲載に「探し物をしていて子供達とクリスマスを過ごした写真を見つけた。若いころは夫婦で子供達のために愛情を注いできた。今、子供たちは巣立ち県外で生活。この家には老夫婦二人暮らし」書かれていました。

介護保険サービスを提供する法人の一人として、この老夫婦も将来、住み慣れた家から離れ施設での生活を強いられるのではないかと何かやるせない気持ちになりました。

家族の在り方は様々だとは思いますが、親が一心に子のために注いだ愛情を今度は老いた親に子がかかりと注ぎ返せる支援をサポートしていくことが私たちに求められています。

今年は利用者の願いを叶えるために家族の支援を考え、「家族の絆」がより強固となるサービス展開ができるよう職員と共に目指していきます。



真誠会セントラルクリニック
看護師長 西川 悦子

“早期離床と活気ある職場” フレイル・肺炎予防、ADLを低下させない、褥瘡ゼロへの取り組みとスタッフ全員で活気ある職場を目指します。



地域密着型介護老人福祉施設皆生ピースポート
通所介護皆生ローズガーデン 事業所長 佐平 登志美

ご入居者の限りある時を入居者、家族、スタッフがともに感動し、大切に時を紡いでいきます。**地域に融和した施設**を目指します。



介護老人保健施設ゆうとびあ
事業所長 齋木 真由美

ご利用者様中心の看護・介護が、**点ではなく線で結ぶ**ことが全体的にできるよう、医師を始め**多くの職種が密に連携して点からの脱却**を目指します。



養護老人ホーム皆生エスポワール 事業所長
介護課長 山根 賢一

エスポワールの意味である「希望」を持ち、生きがいに繋がるよう「**役割の創出**」「**出番作り**」「**日常生活の自立支援**」に取り組みます。

新年のご挨拶～本年も



介護老人福祉施設ピースポート
事業所長 細川 祥恵

最期の一瞬まで愛を持って関わり利用者さんの顔から笑顔がこぼれるパーソンセンタードケアの実践を目指します。



真誠会医療福祉連携センター
センター長 小山 雅美

真誠会全体で支援するという共通理解のもと、繋いでゆく役割であることを認識し、地域(まち)のかけつけソーシャルワーカーを目指し続けます。



社会福祉法人真誠会 総務課長
真誠会ホスピタウンレジデンス 事業所長 竹下 将史

人と人との繋がりを大切に、感謝の気持ちを常に持つようにしていきます。



リハビリテーション科
課長 大西 博巳

本人が持っている能力を最大限引き出し、活動的なリハビリを提供します。セラピストが地域貢献(転倒予防・認知症予防等)活動を実践します。



医療法人真誠会
総務課長 長谷川 俊彦

職員の利用者サービス向上のため、各事業所を支えています。



介護老人保健施設弓浜ゆうとびあ
事業所長 岡田 修治

ご利用者のご家族、地域との繋がりを大切に、地域になくってはならない老健施設を目指します。



通所介護真誠会ローズガーデン
事業所長 道祖 正紀

地域の拠点として地域の皆様と共に活動出来る事業所を目指します。



訪問看護ステーションネットケア
事業所長 神田 典枝

「家に帰りたい」「家でみたい」という思いを実現できるよう共に考え、サポートできる看護ケアを提供していきます。



介護予防センター真誠会
事業所長 澤田 健太

趣味、楽しみ、生きがいなど続けられる、またできるように一緒に目指していきます。



通所リハビリテーションゆうとびあ
事業所長 山崎 慎吾

「利用者様の日常生活の向上」を目標におき、リハビリや活動のサポートを職員一丸となって行なっていきます。



真誠会セントラルクリニック訪問リハビリテーション
事業所長 岡田 健吾

「人間はひよわな存在。だから寄り添って生きることができる。」一緒に考え探し、生き方上手を目指しましょう。



通所リハビリテーション真誠会
事業所長 森 貴広

「したい活動から・できる活動へ」利用者様や家族様のご希望に寄り添い、スタッフ一丸となりサポートさせていただきます。



ケアハウスリバーサイド
事業所長 矢倉 ツヤ子

ここが一番! 法人の理念である感動ある福祉を目指し、豊かな人生の創造の支援に努めます。



看護小規模多機能型居宅介護真誠会ふる里
事業所長 花房 幸雄

介護・看護が力を合わせ、一人でも多くの「自分の家で自分らしい暮らしがしたい」が実現できる事業所を目指します。

よろしくお願ひ致します〜



グループホーム椿庵・桜庵
事業所長 赤井 康人

明日への希望と、入居者様、職員、地域の皆様共々、**椿桜の大輪を咲かせる**ような年を目指します



グループホーム青松庵
事業所長 秋田 将宏

入居者と家族へ誠意を持って接し、**青松庵に入居して良かった**とっていただける施設を目指します。



通所リハビリテーション弓浜ゆうとびあ
事業所長 角田 靖

『**リハビリの架け橋を目指して**』本人様、家族様、地域との繋がりを大事にがんばります。



通所介護真誠会セントラルローズガーデン
事業所長 中田 純平

利用者から満足され、地域から愛される! そんな事業所を目指します!



富益しあわせデイサービス
事業所長 遠藤 夏記

ご利用者様、家族様が『**しあわせ**』を感じられる心の通うデイサービスを目指します。



小規模多機能型居宅介護浜の絆
事業所長 山下 剛志

ご利用者、ご家族、地域の方々との**絆を大切に**して地域で安心できる場所を目指します。



脳活性クラブ米子真誠会(童謡の里)
事業所長 福島 貴雄

「**一人一人に寄り添う、懐かしい雰囲気、落ち着いた場所**」を基にご利用者様、そして地域の方々に懐かしさと、安らぎが感じられる事業所を目指します。



脳活性クラブ弓浜真誠会(若竹庵)
事業所長 杉谷 めぐみ

高齢者、障がい者、子どもなど**誰もが気軽に立ち寄り安心できる場所**よろずやを目指します。



居宅介護支援事業所真誠会
事業所長 竹内 奈緒美



ケアプランセンター弓浜真誠会
事業所長 村上 典子



ケアプランセンターセントラルローズガーデン
事業所長 大宮 紀子



ケアプランセンター東山ローズガーデン
事業所長 森脇 美佐緒

介護、リハビリ、認知症などのご相談に応じ、**ご利用者様に寄りそった支援**をいたします。



通所介護弓浜ゆうとびあ
事業所長 松本 文

ご利用者様、ご家族様が笑顔で過ごせるよう、**相互関係を大切に**温かいデイサービスを目指します。



透析施設オアシス
事業所長 加瀬部 寛

透析患者様・御家族様が安心して透析療法が行えるように『**愛と知識を持ち**』信頼される透析室を目指します。



訪問介護弓浜真誠会
事業所長 山田 千佳

共に生き・地域と歩む事業所を目指します。



定期巡回・随時対応型訪問介護看護真誠会
事業所長 福島 知義

今年の流行語大賞は「ONE TEAM」。当事業所も「**チーム丸**」となって、ご利用者様の生活を支えてまいります。



真誠会セントラルレジデンス
事業所長 佐々木 雄史

ご入居者様が**日々安心で安全な暮らし**を送れるよう、ともに支え合い歩いていきます。



有限会社メディカルフロンティア 生活支援隊
所長 塚田 佳充

ご利用者様、ご家族様の為に迅速且つ丁寧な対応を心掛け、『**感謝の心**』を胸に日々精進いたします。

真誠会 令和最初のゆく年くる年

通所リハビリテーションゆうとびあ 鍋パーティー

令和元年12月27日に利用者の皆様と一緒に鍋パーティーをしました。

ご利用者に材料の準備を手伝って頂き、美味しい鍋が出来上がりました。



温かくて
おいしいね～



弓浜脳活性クラブ 若竹庵 初詣

皆で大崎神社へ初詣に行き今年1年の健康をお願いしました。地域の方から温かい甘酒を振舞ってもらい心も身体も温まりました。

甘酒が
おいしいわ～



小田理事長写真展 ときめきの 京都

令和元年12月に、山陰合同銀行米子西支店で小田理事長写真展を行いました。寺社仏閣の紅葉の写真など20点を展示しました。

平野屋と人力車
撮影場所：嵐山



平野屋をバックに若い男女をのせた人力車ですが、静かにたたずむ平野屋と車夫の動、平野屋と若い男女のお客のコントラストが私にとって魅力でした。この場に居合わせたチャンスを神様に感謝